

団体名	大竹市	所属	建設部監理課	他団体等との連携	市民団体
連絡先	庶務係 (0827)59-2160				

取組事例名	学校用品のリサイクル市	取組期間	平成25年8月～10月
--------------	-------------	-------------	-------------

取組の概要 ～住民協働という視点でイベントを提案

学校の廃校に伴って廃棄されることが決定されている備品や教材類を、希望する市民に販売し、再利用をしてもらう事業を「市制施行60周年記念事業」として行うこととし、地域住民や市民団体との協働の視点を取り入れ、市民団体パインコーンズが主催する雑貨市イベント『であいマルシェ』に出店する形で実施した。

取組の背景 ～不要になった学校用品のリサイクル市を廃校で

- 1 平成20年から学校の廃校や移転が続いていた。
- 2 従来は、不要になった備品類などは、業者に一般指名競争入札の方法で売却処分していたが、近年、学校備品、学校教材等の払い下げを希望する市民が増えてきた。
- 3 「市制施行60周年記念事業」の視点が『住民協働』だった。
- 4 市民団体パインコーンズが過去2年にわたって地域住民と協働し、3年前に廃校になった旧松ケ原小学校校舎を利用した雑貨市「であいマルシェ」を開催して好評を得ていた。

取組のねらい ～埋もれている資源の掘り起こしのきっかけに！

- (1) 廃棄処分予定の備品や教材類を、必要とする方にリサイクルすることで「ものを大切にする心」を学び、「捨てるなんてもったいない」という感覚を再確認する。
- (2) ふるさと大竹に埋もれている資源を掘り起こすきっかけにつなげる。

取組の具体的内容 ～廃校になった職員室が雑貨ショップに？！

- (1) 8月に、既に廃校になっている旧木野小学校、旧松ケ原小学校、移転建替えになった小方小学校、小方中学校で使用されていた物品のうち、物品廃棄処分報告書が提出された物品で売却が適当なものを選定調査を実施。販売リスト（約650個）を作成し、雑貨市の開催が可能になる程度の品数があることを確認。
- (2) 雑貨市の行政単独開催や市民団体と行政との共同開催という形ではなく、行政も一つの参加者に徹するような、より市民に主体性のあるイベントへの参加を選択。市民団体パインコーンズが、地域住民とで協働開催している『であいマルシェ』という雑貨市イベントへ参加することとした。
- (3) 9月に、『であいマルシェ』開催準備のため、市民団体パインコーンズや松ケ原地域の住民と協働で、会場予定になっている旧松ケ原小学校及び周辺の清掃作業に参加。
- (4) 10月に販売場所に指定された旧松ケ原小学校職員室に、販売予定品およそ650商品を持ち込み、学校用品リサイクル市店舗としてレイアウト。
- (5) 雑貨販売に詳しい市民団体パインコーンズのアドバイスを参考に、各商品の売値を決定後、値札の取り付けを行った。
- (6) スタッフの役割を確認し、メディアでの事前告知を積極的に行った。
- (7) 10:00イベント開始～15:00までの販売の中で、11:30～12:00と13:30～14:00の2回にわたり、販売する商品数が少ないものを対象に「オークション」を実施して、イベント性を盛り上げた。
- (8) 市制60周年事業オリジナルデザインの売却済みシールを作成、売却済みの商品に貼付して、市制60周年事業を積極的にPRした。

取組を進めていく中での課題・問題点 ～想定外の人気で問題多発

- 1 イベント開始早々から、学校用品を求めのお客が長蛇の列となり、ガラス製品等を販売している店内の安全性を確保する目的で、入店制限を行ったが、入店待ちが長時間になったため苦情が相次いだ。
(予想をはるかに上回る人気であった)
- 2 陳列棚ごとには値段表示はしていたが、各商品それぞれには値札を取り付けていなかったため、商品の値段を確認するのに手間取り、レジが長蛇の列となって苦情が相次いだ。
- 3 お買い上げ個数の制限を設けていたが、家族で買い占める方、買い占めを狙った業者仲間での購入等があり、広く多くの方に販売できなかった。
- 4 当日配置したスタッフ数が不足した。(入店待ちの列の整理やレジの処理が予想外だったため)



創意工夫した点 ～オークションを取り入れるなど、イベントを盛り上げた

- 1 職員室を非売品の小物でデコレーションするなど、あたかも専門の雑貨店のようにレイアウトした。
- 2 試験管やピーカー、フラスコ等の人気が予想される商品は一度に展示販売せず、在庫を残し、午後からの客が購入できるように工夫した。
- 3 販売商品が一つしかないものなどは、争奪戦が予想されるため「オークション」での販売とした。
- 4 業者等の買い占めを防ぐため、HPの事前広告には詳細な商品情報を掲載しなかった。
- 5 市としては廃棄処分する予定のものだったので、売れ残りをなくすため、閉店30分前からの値引き販売を可とした。



取組の成果(効果) ～市民主体の事業を行政がサポートするモデルケースに

- 1 商品数およそ650のうち、売れ残ったのは50程度で売上総額は225,200円となった。
- 2 学校用品のリサイクル市は近辺では珍しいイベントであり、入店待ちが1時間以上の状態になるなど、人気の取り組みになった。
- 3 市民だけでなく、市外からのお客も多く訪れた。
- 4 かなり傷んだもの、壊れているものも価値観を認める方が大勢いることがわかった。
- 5 市民主体の事業を行政がサポートする型のモデルケースとなった。
- 6 市制60周年記念事業のPRは、チラシや売却済みシールである程度はできたが、全体のイベントノ盛況ぶりに、のみ込まれた感がある。

今後の展開 ～廃棄処分だけでなく再利用という視点を加える

- 1 不用品の処分については、廃棄処分だけでなく再利用という視点での方法も加えて検討する。
- 2 自主的にイベントを主催できる市民団体の育成が課題。

他団体へのアドバイス ～廃棄品から新たな価値観を

- 1 行政からすれば、不要な廃棄品ではあっても、それは一方向から見た基準であり、他方向から見ると新たな価値観を認めて、必要としている方がいるという認識を持った方がよい。
- 2 行政主体のイベントではなく、市民主体のイベントだからこそできることもあるので、行政がサポートするイベントのありようも研究した方がよい。